

平成 30 年度の事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日から 31 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 居場所創造プロジェクト

1. 事業の成果

30 年度は、会員、支援員、ボランティアメンバー、各種団体等の応援・協力のもと、東日本大震災復興支援 JTNPO 応援プロジェクトや県高齢者ご近所支え合い助成の活用や寄付金と事業収益及び企業セミナーや各種講習会に参加し、居場所ハウスの人員体制・財政基盤の強化と安定した運営を図ってきたところである。また、地域の高齢者等を中心にそれぞれの役割を果たしながら、各種事業を積極的に展開し、コミュニティの創出と伝統文化の継承及び地域の活性化に貢献してきたところである。

「居場所ハウス」の来訪者の中心は末崎町の高齢者だが、放課後や休日には子供たちが遊びに来たり、町外からの来訪者及び多世代の人々が各種講習会・教室・催事等に多くの来館・参加があった。

一日平均の来訪者数は 24.3 人となっている。(来訪者数 7,400 名、別紙参照)

(1) 組織・運営の継続強化

①会員・支援・ボランティアメンバーの協力・確保及びパート雇用によるサポート

30 年度は、支援者・協力者及びパートの雇用により、多世代がふれあう場所・楽しむ場所・育む場所として、町内外・地域住民の来訪・利用者や市外からの視察・見学者等を迎えたことや居場所ハウス各種事業の準備・開催に対応したことは、今後の運営・活動の継続の励みとなった。なお、居場所ハウスの果たす重要性を考え、役割分担を再認識し活動することが肝要と考える。

さらに継続運営のためには、担い手の確保及び正会員・賛助会員の拡大・町外企業寄附の勧誘及び自主事業の改善・充実による組織基盤の強化による、自主運営が求められる。

※市外の企業等からの寄附金等 (株)メディアリンク様・山岸冷蔵(株)様・綾川正子様・形見法三様・鈴木雅子様 他

心から厚くお礼申し上げます。

また、日米防災調査団、遠野市わいわい館、米国ノースイースタン大学、神戸大学他からの依頼及び数多くの来訪者・見学者等に対する説明及び運営・活動状況の説明や復興庁大臣感謝状受賞、知事との県政懇談会に対する対応やメディアの取材対応など、数多くの見学・訪問者との出会いは、今後の居場所ハウス運営・活動の進展に繋がるものと確信する。

なお、災害公営住宅・防災集団移転住宅の高台移転は、2 年目を迎えているが、これからが正念場であり、高齢者・被災者の心身のケアや孤立の防止及びコミュニティの創出のため、居場所ハウスへの役割が大きく期待・要求されることから、組織基盤の充実強化を図るためにも、絶対的に支援者・協力者の確保が肝要である。

②定例会の開催

毎月 1 回、運営状況と翌月の行事や課題及びコアメンバーの当番決定や改善点等について、報告・協議を実施してきた結果、食堂の運営やメニューの改善、催事の円滑な開催等に対する発言もあり、円滑な運営・活動のサポートとなっている。

今後においても、様々なことを、多くの事を話し合うことが、円滑な運営・活動に繋がると考える。

なお、定例会の重要性の認識と協議内容の共通把握には、メンバーが一人でも多くが参加できるように、お互いに行事等に配慮していただき、連絡を密にしながら開催することが肝要と考える。最近では出席者が少なくなってきたことが懸念される。

また、新たに外部団体にも、定例会に参加してもらい居場所ハウスの運営・活動に対する協力的提案等が

話されたので、今後の活動の参考としたい。(現在は、末崎町婦人会、共生地域創造財団が参加)

③コアメンバー・支援員による施設運営・活動支援

一週間のうち3日間をパートと3日間をボランティアの協力により、来客の対応や食堂の運営をしてきた。また、朝市や催事等では、コアメンバーやボランティア団体等により施設運営・活動を円滑に実施したところである。このような有効的な体制を構築し、継続するために、今後も、多くの町民の皆さんに対し仲間同志で積極的に声掛けし、コアメンバーやボランティア団体等の拡大に努め、継続的・効果的な施設運営・催事等を実施することが肝要と考える。

(2) 組織体制の確立と人材育成

NPO 法人居場所創造プロジェクトの運営・活動は、設立から7年目を迎え、これまでコアメンバーやボランティア及び各種団体等によるご支援ご協力により問題解決をしてきた。

また、組織体制の確立・会計システム等の充実と円滑な推進のため、居場所のこれからを考える会2回・いわて復興支援センター、大船渡市市民活動センター、霞が関ナレッジスクエアとの話し合いや花巻市への調理等研修2回、及びいわて復興支援センター寄附セミナー参加、大船渡市・高田市・居場所ハウスで開催のシニアパワーいわてによる会計ソフトの指導、NPO法人等に対する労務・総務・会計の研修・講習会3回に参加し、運営・活動のあり方・会計処理方法・助成金の申請方法等を学んだことは、運営・活動に対する認識を強く持つことが出来、運営体制の確立・継続運営には効果的だったと考える。

(3) 五周年記念感謝祭・朝市合同開催

6月16日(土)、居場所ハウスがオープンから五周年を迎えたこと及び地域住民とのより一層のコミュニティの創出や地域活性化の進展及び居場所ハウス利・活用に対する、支援・協力への感謝を込めて五周年記念感謝祭を開催した。オープニングとして市長他の来賓による祝の餅まき、地元末崎町出身の民謡歌手「佐々木深里さん」と舞踊家「さすけさん」の舞台出演や「道化」による祝い踊り及び「おぢづき」のふるまいで、賑やかで盛大に開催された。

また、朝市を同時開催し、新鮮野菜・魚介類・やきそば・焼き鳥・衣類・大判焼き・野菜苗・フリーマーケットなどが会場内に出店され、多くの来場者で賑わった。来場者の方で「心が開かれとても楽しい。知り合いにも久しぶりに会えてうれしかった満喫した様子であった。

この祭りには、コアメンバーやボランティア及び支援員など約50名のメンバーが結集・協力し開催された。好天にも恵まれたことや無料シャトルバスの運行により、町内外からの来賓をはじめ、子供から高齢者まで多くの住民が来場し約200名の参加があった。その中でも、被災者を含め参加者は、前回に増して様々な人々が交流・来場しており、大変有意義で効果的な五周年記念感謝祭で終日賑わった。

(4) 朝市の開催

朝市の開催は、毎月第3土曜日に、毎回約11店舗以上の出店があり、居場所ハウスのメンバーやボランティアの皆さん(約25名・準備含め)の協力により、賑やかに充実した内容で開催されている。

朝市は、町内外からの出店があり、居場所農園の野菜・生花・衣料品・鮮魚・郷土食品・オリジナル焼き鳥・海産物・乾物・大判焼き・たこ焼き・刃物研ぎが出店している。周知等の効果があり、高台移転者、町外等の来場者が増加しており、毎回平均70名の来場者で賑わっている。

このことは、地域の食生活環境の向上や親睦交流の場となるとともに、つながり・ふれあい場の創出と新たな地域コミュニティの創出に貢献されているものと確信する。

(5) スマイル食堂の開設

震災から8年を過ぎた今でも、近隣地域には、特にも、高齢者被災住民にとっては、気軽に食事ができる飲食店がほとんどないため、暮らしにくい食生活環境となっている。そのことから、2015年5月に食堂

をオープンした。居場所ハウスの支援者やボランティアの皆さんの協力及びメニューなどの充実・改善を重ねて、配達を含めた昼食(木曜日休み)を提供してきた。徐々に来場者・配達が増加しており、日常生活において地域住民・高台移転住民の食生活・利便性の向上及び交流・ふれあいの場となっている。(利用者数延べ 2,968 名、別紙参照)

今後も、メニュー等の改善・運営の努力・一部の地域、災害住宅にチラシ等で配達等を周知しながら、皆さんに喜ばれるスマイル食堂を目指すことが重要と考えています。また、継続運営には、高齢化等による調理メンバーの確保が課題となっているので、居場所通信への掲載や各種団体への協力及び町内外に向けた声掛け等による確保が肝要と考える。

(6) 居場所農園づくり

居場所ハウスでは、2013 年の夏から「居場所農園」をつくり、朝市での販売や食堂で使用するため、多種類の野菜をつくり育ててきた。30 年度は、毎日居場所ハウス前での直接販売を実施し、高台移転者等の食生活の一助となった。

今後は、町内及高台移転者の方々にも、体験型農作業の開催に向けた声掛けを行い、交流の場や活躍の場の創出と生活支援に努めるとともに、今後も、居場所農園を継続するため、町民や町内の団体に対し協力要請及び雇用など積極的に実施することが肝要と考える。

(7) こどもの日鯉のぼりまつり

5 月 3 日にこども鯉のぼり祭りを開催した。こどもの健やかな成長を願って笑顔で楽しく触れ合い、より一層絆を深めるためのために開催。今年で 5 回目を迎えた。会場には大小さまざまな鯉のぼり約 20 匹や大漁旗が掲げられた。可愛い末崎保育園児による踊り・マジックショー・おおふなトンの登場・川村さんの風船アートで会場を盛り上げた。ゲームコーナーでは、射的・ヨーヨー釣り・ホタテ貝殻投げ・ほや釣りが行われ子供たちに大人気でした。手作り鯉のぼり・焼きそば・フリーマーケットコーナーも好評であった。多彩開催しが行われ地域住民の多世代交流を深めながら楽しんだ様子であった。来館者は約 150 名で賑わった。

(8) 居場所ハウス納涼盆踊り・ひな雛祭りとお茶会・ミズキ団子づくりと餅つき会の開催

①8 月 15 日に納涼盆踊りを開催したところ、曇天であったが約 100 名の参加者でにぎわった。

地域に伝わる伝統文化・行事を学びながら、末崎町の風土に受け継がれていくことの大切さや地域住民及び被災者と帰省者が楽しみながら交流を深め、地域コミュニティの創出実現を目指すため開催した。お盆の帰省者や地域住民の日常生活のリフレッシュになったものと確信する。

今後も継続し開催する意義があるものと感じたところです。各コーナー運営は、居場所メンバーと地域の若者や婦人会、カリタスジャパン大船渡ベースなどボランティアの皆さんの協力支援で、手作りうちわ・射的ゲーム・ヨーヨー釣り・流しソーメン・焼き鳥・スイカ割り・花火・ピアガーデンも好評で、夏のひとときを過ごした。夕市終了後に、多くの各コーナーが開店できたことは、催事を大きく盛り上げた。

②2 月 11 日(日)、雛祭りとお茶会の開催では、古くから伝わる伝統文化を継承することが大切であるとの思いから、毎年、町内住民や仮設住民を対象に開催した。七段飾りのひな人形や昔の土作り雛人形、つるしびなが会場を華やかに彩った。また、同時に茶道の滝田先生をお願いし、地域住民のほか中国水産研修生も訪れふくよかな抹茶を味わった。34 名の参加があり楽しく盛況なひな祭りとなった。今後も、伝統文化の継承のため、工夫を重ねながら積極的に推進して行きたい。なお、2 月 14 日に千厩ひな祭りを見学し、出店の方法など今後の参考となったようだ。

③1 月 9 日(土)、ミズキ団子づくりと餅つき会は初開催で、最近あまり行われなくなった小正月行事を楽しんでもらい、家庭でもこれから続けてもらうために開催した。サロンの高齢者、地元の小学生や高校生ら約 30 名参加した。

この日は健康サロンの皆さんに教わりながら、小さく丸めて水木に飾った。その後は、サロンの皆さんと一緒に会話を楽しみながら、みたらし団子を美味しく食べた様子であった。小正月行事のミズキ団子づくりを通して、ふれあいと交流を深めた。地域に根付かせる文化の継承として、今後も継続して行きたい。

(9) 居場所ハウス親子物づくり教室の開催(どこ竹 in まっさき・下地悠太さんの協力)

①8月5日の夏休み親子・祖父母物づくり教室では、どこ竹 in まっさきの皆さんの協力を得て、親子・祖父母13名と多くの参加があり、竹細工によるカブトムシや、昔懐かしい水鉄砲づくりを楽しく体験した。

このことにより、さらなる親子・祖父母のふれあいを深めるとともに絆をより一層強めたものと思います。

②3月24日の春休み親子物づくり教室では、大船渡市地域おこし協力隊の下地悠太さんの発案による「バードコール」制作を、親子で触れ合いながら作る楽しさ、面白さを体験した。バードウォッチングにも活用されている。この日は、子どもから一般の参加者は約20名。

(10) 絵手紙教室

9月24日、地元の桑原サキ子さんを講師として絵手紙教室を開催、町内から6名が参加した。参加者は始めに輪郭を描くための筆遣い等を学び、その後は、野菜・果物をモデルに温かみと各自の個性がある絵手紙を完成させた。難しいと言いつつも充実した表情を見せながら、絵手紙の魅力を感じとった様子であった。今後は、町外にも参加を呼びかけ、多くの皆さんに絵手紙の楽しさを普及して行きたい。

(11) 末崎の歴史を学ぶ会

11月24日開催の末崎の歴史を学ぶ会は、末崎の昔を語る会事務局長の新沼紀三氏を講師に開催された。当日は、町内外から約13名の参加があった。バスで巡り先人の足跡をたどった。神坂の金毘羅神社、中野の地藏尊石、小田の愛宕神社・秩父・坂東・三猿神社などの9か所を回った。歴史ある神社や史跡を巡って興味深い様々な歴史の話に思いをはせ、熱心に聞き入っていた。普段歩かない場所に入り、新たな発見の連続と祖先の暮らしに思いを浮かべ、長い時の流れを感じ取った。これからも、機会をとらえ継続開催して行きたい。

(12) 暮らしの介護講座・相談会及び自分のからだを知る健康講座

①毎月1~2回、地域住民・高台移転住宅住民に対して、日常の介護の仕方講座・困り事の相談会を開催し、日常の介護に対する生活環境改善・向上に努めた。認知症は脳の病気、認知症となることを受け入れ、周りの人と一緒に乗り越えていけば後悔しないこと。老いを受け入れ、くよくよしないことを覚えてほしいと呼びかけていた。典人会の職員を委嘱し「暮らしの介護講座・相談会」を開催したところ62名の参加があったことは、介護に興味があることの証であり、一定の成果があったものとする。

②3月23日開催した健康講座は、気仙苑のリハビリ理学療法士と市健康推進課保健師を講師として開催した。地域住民25名が参加し、握力や座位体前屈を行い、手足の力、柔軟性、バランスをチェックした。

また、体組成計を用い、体脂肪、内臓脂肪、足や腕の筋肉量を測った。測定後は、注意すべきポイントの解説や家庭でもできる体操で汗を流した。自分の体力を知り健康の大事さを感じた様子であった。半年後をめどに再度開催を予定し、参加者の体の変化を確認することとしている。

(13) わらしっこ見守り広場(子ども一時預かり)

4歳から6年生までを対象に、保護者の方が一時的な都合で世話ができない子どもを無料で一時預かりし、子ども・子育てを支援するため、毎週土曜日・振り替え休日の月曜日・学校行事等による臨時休校日の10時から16時まで、元教員と保母を中心に、わらしっこ見守り広場を開設している。利用者は少ないが、夏・秋の居場所っ子クラブの開催では58名の参加者があった。また、来館する子供や行事における見守りを実施したことは、一定の成果があったものと考えます。今後も、地域の実情を見極めながら、継続実施することが肝要と考える。

(14) 防犯ミニ講和

10月26日、末崎駐在所小岩政樹巡查長を講師として、初めての防犯ミニ講和を開催した。町内から40名の多くの参加があった。近年、全国的に横行している振り込め詐欺や訪問販売による詐欺被害の防止のために開催した。不審に思ったら勇気をもって断ることやすぐに警察に電話をかけることが重要とのアドバイスがあった。熱心に聞き入れ、自分のこととして意識することの大事さを感じとった様子であった。

(15) 健康体操・ノルディックウォーキング

健康体操教室は、地元の熊谷侑希さん、ノルディックウォーキングは、赤崎町の今野オワ子さんを講師として開催。居場所ハウスでは、町民の皆さんが毎日を健康で楽しい日常生活を過ごすために企画している。健康体操は、毎月第2日曜日開催しており、軽体操から始まりボールを使った体操などによる、体と頭を使い脳の活性化となり楽しく実施している。参加者は毎回約8名である。また、ノルディックウォーキングは、毎月第4日曜日開催しており、準備体操後に、皆さんが歩けるコースを決め、心地よい汗を流し楽しく会話をしながらのウォーキングとなっている。参加者は新たな人も増えており、嬉しいことである。参加者は毎回約10名である。

(16) 居場所健康サロン

毎週1回水曜日、典人会の協力により、町民を対象に、超高齢化社会や高台移転者等の心身のケア・孤独死・生活不活発病を防ぎ、日常の生活を健康で過ごすために、居場所健康サロンを開催した。体操・様々なゲーム・お楽しみ会・紙芝居等を実施しており、交流するなかで触れ合いも生じ、平均11名の参加があり増加傾向は嬉しい、毎回楽しい健康サロンとなっている。このことは、日常の健康な生活環境向上にも大いに役立っていると確信します。今後も健康で過ごすために、皆さんとともに工夫し知恵を出し合い継続できればと考えている。(健康サロン48回開催)

(17) 施設利用・活用

居場所ハウスは、午前10時から午後4時までの開館で、多くの方法で利用・活用されているが、特に小・中学校の親子父母の会、運動部の送別会や山岸仮設お茶っこの会、老人クラブ、婦人会、地域の婦人部立根地域同窓会などの利用があり、大変有難いと思っている。今後も、その都度声掛けを励行し仕様の増加につなげたい。

また、午後4時から午後9時までの利活用を普及促進し、利便性の向上に努めてきた。30年度は、一部の団体と子どものエンパワメントいわてが、月・火・金曜日「学びの部屋」として使用しており、利活用が図られている。今後も、居場所通信や使用者等に周知し、より一層の利活用に努めるものとする。(2018年度利用回数143回・利用延数1,978名)

(18) 居場所ハウスを考える会

オープンから7年目を迎えた。これまで様々な方々との出会いから、運営・活動に向けたヒントを得てきた。しかし、掘り下げて話し合う機会を持たない現状であった。そのことから、居場所ハウスの継続に向けた居場所ハウスの運営を考える会を3回開催した。メンバーは、霞が関デジタル公民館、三陸復興センター、市民活動センター、居場所コアメンバーで話し合ってきた。今後も会を重ねながら、様々な形で達成できるよう模索して行きたい。また、視察研修の実施や講習会・講演会等を聴講しながら、継続運営の参考としたい。

(19) 寄付金・助成金等の活用

地域の様々な人々が、誰もが気軽に立ち寄り、自分なりに役割を持ちながら、楽しく自分らしくいられる「居場所」をモットーに建設された、多世代交流施設居場所ハウスの運営・活動に対する会費・寄付金・助成金等により、以下の主な事業を実施した。

※今年度の助成金対象

(1)東日本大震災復興支援 JTNPO 復興応援基金 2,579,028 円(10ヶ月分対象)

(2)岩手県高齢者支え合い助成金 174,000 円(手芸教室1年分対象)

①有給ボランティア4名及びパート雇用4~5名による、事業運営、活動・日常の施設等の維持管理に対する経費とした。

・パート給料・有給ボランティア賃金 3,207,110 円・福利厚生費 1,724 円

②各催事・講習会・教室等の謝礼や必要とする物品、材料等の購入により、事業開催等の運営・活動を効果的に実施した。

・催事費 497,299 円

③地域住民や高台移転者及び来訪者等に対する食事の提供用とする一年間分の材料を購入し、食堂運営を行った。

・食材費 587,056 円

④一年間のまつり・講習会・教室等のチラシ、ポスター印刷や新聞広告の掲載により、各種事業の開催や多世代交流施設居場所ハウスの普及宣伝に努めた。

・印刷製本・広告宣伝費 205,538 円

⑤居場所コミュニティカフェの運営に関わる、コーヒー・ゆず茶・ソフトクリーム等を来館者や行事参加者に提供し、親睦交流やふれあいの場の提供に努めた。

・コミュニティカフェ材料費 132,928 円

⑥居場所ハウスや食堂と各種機器で使用している水道・電気・ガス・電話を使用して、各種事業の開催や多世代交流施設居場所ハウスの運営・活動を実施した。

・水道光熱費 503,710 円・通信運搬費 127,074 円

(20) 催事及び各種講習会と教室等の開催

①子どもの日・鯉のぼりまつり

・5月3日(木・祝) 10:00~13:00 末崎保育園・マジックショー・風船バルーンアート・おおふなトンの出演や縁日など、約150名の参加

②高台移転者歓迎交流会・五周年記念感謝祭・朝市合同開催

・6月16日(土) 9:00~13:00 約200名の参加者

③夏休み居場所っこクラブ・秋の居場所っこクラブ

・8月3日(金) 10:00~12:00 約33名の参加者

・11月10日(土) 10:00~12:00 約25名の参加者

④夏休み親子物づくり教室の開催

・8月5日(日) 10:00~12:00 13名の参加者

⑤町民・帰省者・被災者支援親睦交流のための納涼盆踊り・夕市合同開催

・8月15日(水) 15:00~20:00 約100名の参加者

⑥居場所ハウスのこれからを考える意見交換会

・9月5日(水) 14:00~16:00 約16名の参加者

・1月29日(火) 13:00~15:00 約7名の参加者

⑦布ぞうりづくり教室(山田武志先生)

・9月30日(日) 10:00~12:00 約8名の参加者

⑧秋の食材を使った料理教室

・10月13日(土) 10:00~12:00 16名の参加者

⑨末崎の歴史を学ぶ会の開催

・11月24日(日) 9:00~12:00 13名の参加者

⑩新そば打ち体験講習会の開催

- ・11月11日(日) 10:00~12:00 9名の参加者
- ⑪かまもち・ゆべしづくり教室の開催
- ・12月8日(土) 10:00~12:00 23名の参加者
- ⑫親子クリスマスケーキづくり教室の開催
- ・12月16日(日) 10:00~12:00 15名の参加者
- ⑬親子ミズキ団子づくり体験会
- ・1月9日(水) 10:00~12:00 24名の参加者
- ⑭雑祭りとお茶会
- ・2月11日(日) 10:00~13:00 34名の参加者
- ⑮ふれあい運動教室(県レク協会共催)
- ・2月20日(水) 10:00~12:00 20名の参加者
- ⑯男の料理教室(りんめいさん)の開催
- ・2月23日(土) 10:00~12:00 8名の参加者
- ⑰自分の体を知ろう健康講座の開催
- ・3月23日(土) 11:00~15:00 約25名の参加者
- ⑱朝市開催
- ・毎月第3土曜日、9:00~11:30、4月7日(土)から3月16日(土)まで計12回(催事と合同開催も有)
- ⑲居場所健康サロン
- ・毎週水曜日、10:00~11:30、4月4日(水)から3月14日(水)までの計48回の開催
(2月20日(水)ふれあい運動会・体力測定開催、20名参加)
- ⑳ノルディックウォーキング
- ・毎月第4月曜日、10:00~12:00、4月23日(月)から3月26日(月)までの計12回の開催
- ㉑楽しい健康体操
- ・毎月第2日曜日、10:00~11:30、4月8日(日)から3月17日(日)までの計12回の開催
(2月20日(水)ふれあい運動会・体力測定開催、20名参加)
- ㉒物づくり手芸教室
- ・毎月第3水曜日、13:30~15:30、4月18日(水)から3月27日(水)までの計12回の開催

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
地域コミュニティ支援事業	・多世代交流イベント・講習会等の開催(別紙資料のとおり)	30年4月1日 ~ 31年3月31日	居場所ハウス	別紙資料のとおり	別紙資料のとおり	3,837
学術、文化、芸術振興推進事業	・図書スペースの提供 ・指導者他を招いて陶芸、音楽活動 ・舞踊、囲碁、雑祭りなど伝統文化の継承	同上	同上	同上	同上	40
情報提供活動事業	・ホームページ、Facebook、チラシ、地方紙、記録誌を	同上	同上	同上	同上	437

	活用した広報活動 ・調査、視察を目的とする見学者への対応資料の作成					
調査、研究事業	居場所ハウス開催のイベント、朝市に対する意識をアンケートで調査し、運営・活動に反映させる	同上	同上	同上	同上	5

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
販売支援事業	・食堂開設による居場所ハウスの運営資金獲得及び地域の高齢者等の生活環境向上支援 ・朝市開催による郷土食品、野菜、衣類等の販売支援	30年4月1日 ～ 31年3月31日	居場所ハウス	20	963

■来訪者数（スタッフを含む）

年	月	行事有	行事有	行事無	行事無	合計	合計
		延べ来 訪者数	平均来 訪者数	延べ来 訪者数	平均来 訪者数	延べ来 訪者数	平均来 訪者数
2013年度合計		2,474	22.7	1,824	13.5	4,298	17.6
2014年度合計		3,577	25.9	2,238	13.5	5,815	19.1
2015年度合計		5,090	30.1	2,347	17.6	7,437	24.6
2016年度合計		4,955	30.2	2,234	16.5	7,189	24.0
2017年度合計		6,203	31.5	1,803	16.9	8,006	26.3
2018年度	4月	347	23.1	180	16.4	527	20.3
2018年度	5月	424	26.5	153	19.1	577	24.0
2018年度	6月	646	40.4	226	22.6	872	33.5
2018年度	7月	519	32.4	182	16.5	701	26.0
2018年度	8月	307	30.7	215	15.4	522	21.7
2018年度	9月	338	26.0	213	17.8	551	22.0
2018年度	10月	391	27.9	187	14.4	578	21.4
2018年度	11月	456	32.6	192	17.5	648	25.9
2018年度	12月	475	31.7	167	18.6	642	26.7
2018年度	1月	298	27.1	206	15.8	504	21.0
2018年度	2月	423	30.2	192	17.5	615	24.6
2018年度	3月	441	29.4	222	18.5	663	24.6
2018年度合計		5,065	30.0	2,335	17.3	7,400	24.3

*2013年度は2013年6月からの集計

■食堂の利用者数（スタッフを含む）

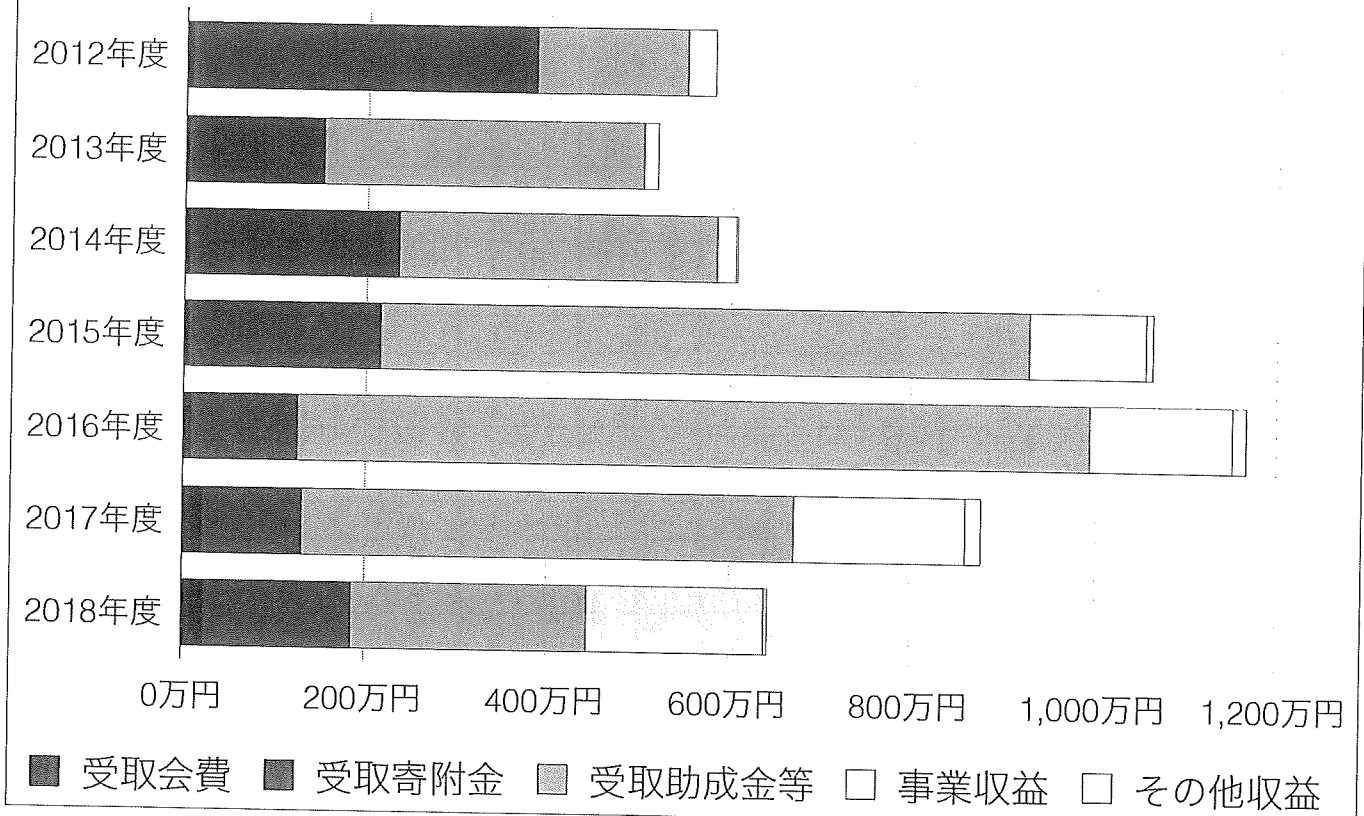
年	月	行事有	行事有	行事無	行事無	合計	合計	合計
		延べ利 用者数	平均利 用者数	延べ利 用者数	平均利 用者数	延べ利 用者数	平均利 用者数	来訪者に 対する割 合
2015年度合計		1,473	10.1	925	8.0	2,398	9.2	
2016年度合計		1,528	9.6	941	6.8	2,469	8.3	34.3%
2017年度合計		2,055	10.7	718	7.0	2,773	9.4	34.6%
2018年度	4月	130	8.7	89	8.1	219	8.4	41.6%
2018年度	5月	133	8.3	74	9.3	207	8.6	35.9%
2018年度	6月	187	11.7	96	9.6	283	10.9	32.5%
2018年度	7月	180	12.0	60	5.5	240	9.2	34.2%
2018年度	8月	99	11.0	91	6.5	190	8.3	36.4%
2018年度	9月	149	11.5	100	8.3	249	10.0	45.2%
2018年度	10月	126	9.7	98	7.5	224	8.6	38.8%
2018年度	11月	172	12.3	115	10.5	287	11.5	44.3%
2018年度	12月	212	14.1	65	8.1	277	12.0	43.1%
2018年度	1月	101	9.2	108	8.3	209	8.7	41.5%
2018年度	2月	155	11.9	109	9.9	264	11.0	42.9%
2018年度	3月	178	11.9	141	11.8	319	11.8	48.1%
2018年度合計		1,822	11.0	1,146	8.6	2,968	9.9	40.1%

*2015年度は2015年6月からの集計

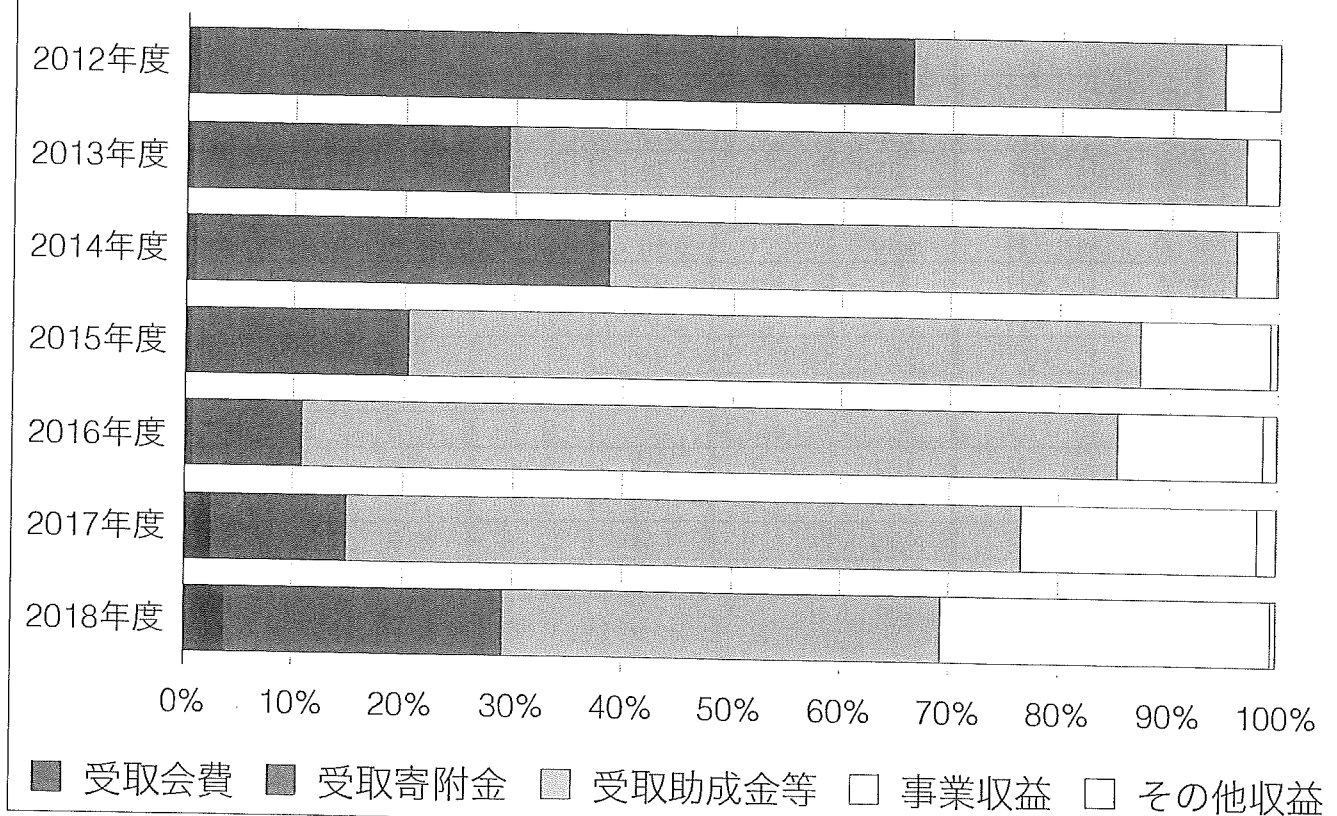
■「学びの時間」の参加者数（スタッフを含む）

- ・2018年度は143回開催され、延べ1,978人が参加。
- ・平均参加者数は13.8人。

経常収益の変遷



経常収益の変遷（割合）



平成30年度活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人居場所創造プロジェクト

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計	内訳明細
【経常収益】				
【受取会費】				
正会員受取会費	127,000		127,000	53人・1団体
賛助会員受取会費	68,500		68,500	14人
会員受取入金	42,000		42,000	19人
【受取寄付金】				
受取寄付金	415,600		415,600	久保田様他
交流会寄付金	1,218,870		1,218,870	お気持・会場費・椿
【受取助成金等】				
受取助成金	2,579,028		2,579,028	JT NPO応援助成金
【事業収益】				
その他事業収益		1,935,181	1,935,181	食堂朝市販売収益
【その他収益】				
受取 利息	24	5	29	
雑 収 益	28,983	7,500	36,483	自販機手数料
経常収益 計	4,480,005	1,942,686	6,422,691	

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

パート給料 (事)	344,230	712,880	1,057,110	
ボランティア賃金 (事)	1,950,000	200,000	2,150,000	
法定福利費(事)	1,724		1,724	雇用保険
人件費計	2,295,954	912,880	3,208,834	

(その他経費)

業務委託費 (事)	45,360		45,360	経理・法規指導委託
諸 謝 金 (事)	210,000		210,000	講師・出演者謝金
印刷製本費(事)	140,738		140,738	イベントチラシ・ポスター
催事経費 (事)	78,806		78,806	イベント経費
通信運搬費(事)	127,074		127,074	電話料・切手宅配
消 耗 品 費(事)	257,484	73,768	331,252	事務・管理用品
食 材 費 (事)		587,056	587,056	食堂食材費
居場所カフェ材料費(事)	132,928		132,928	コーヒー・ソフトクリーム他
備品消耗品費 (事)	29,812		29,812	和室用椅子・掃除機
修 繕 費(事)	10,500	10,368	20,868	チェンソー・ガス台修理
保守管理費 (事)	30,920		30,920	浄化槽管理
水道光熱費(事)	297,526	206,184	503,710	水道電気ガス代
地 代 家 賃(事)	70,000		70,000	土地借用代
減価償却費(事)	1,696,959		1,696,959	建物分減価償却費
広告宣伝費 (事)	64,800		64,800	東海広告 祭り2回
保 険 料(事)	141,920		141,920	災害保険・ボラ保険
諸 会 費(事)	10,000		10,000	日本NPOセンター
接待交際費(事)	500		500	駐在さんへ菓子
租 税 公 課(事)		74,600	74,600	法人税 国県

平成30年度活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人居場所創造プロジェクト

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

支払手数料(事)	6,480		6,480	データ管理料・振込料
雑費(事)	3,705		3,705	混合油
農園経費(事)		11,795	11,795	肥料・シート等
その他経費計	3,355,512	963,771	4,319,283	
事業費計	5,651,466	1,876,651	7,528,117	
【管理費】				
(人件費)				
人件費計	0	0	0	
(その他経費)				
会議費	1,900		1,900	総会飲料
その他経費計	1,900	0	1,900	
管理費計	1,900	0	1,900	
経常費用計	5,653,366	1,876,651	7,530,017	
当期経常増減額	△ 1,173,361	66,035	△ 1,107,326	
【経常外収益】				
経常外収益計	0	0	0	
【経常外費用】				
経常外費用計	0	0	0	
税引前当期正味財産増減額	△ 1,173,361	66,035	△ 1,107,326	
経理区分振替額	178,374	△ 178,374	0	
当期正味財産増減額	△ 994,987	△ 112,339	△ 1,107,326	
前期繰越正味財産額			27,796,529	
次期繰越正味財産額			26,689,203	